

令和3年度 第1回北区民まちづくり会議 摘録

1 日 時

令和3年6月28日（月） 午後6時30分～午後8時

2 場 所

北区役所本庁舎3階 大会議室

3 出席者等

別紙資料1のとおり

4 概要

- 1 開会
- 2 区長挨拶
- 3 議題
 - ・「北区基本計画」最終案とパブリックコメントの結果 について
- 4 その他
- 5 閉会

5 摘 録

○事務局

ただ今より令和3年度第1回北区民まちづくり会議を開催する。本日の司会を務めさせていただきたく北区役所地域力推進室長の向井である。開会に当たり、武田区長から一言挨拶を申し上げる。

○武田区長

本日は、ご出席いただきありがとうございます。北区まちづくり会議もいよいよ佳境である。次期北区基本計画についてはパブリックコメントを終えたところである。次期北区基本計画には、パブリックコメントのご意見、さらに3月のまちづくり会議にて委員の皆様からいただいた多数のご意見を反映している。本日はそれについて、皆様に事務局からご説明を申し上げ、また新たなご意見をいただいたものについては、必要に応じて修正し、最終決定としたい。

それでは本日の午後8時までの予定ではあるが、どうぞ忌憚のないご議論をよろしく願いしたい。

○事務局

それでは本日の会議を始める。本日は、今年度初めての集まりになる。また本日が北区基本計画策定に向けた最後の会議ということでもあるため、令和2年度の委員にご就任いただいていた方々にも本日の会議にご出席いただいている。それではご出席の皆様から一言ずつ自己紹介をお願いしたい。

(委員自己紹介)

○事務局

それでは本日の会議を進める。昨年度までの本会議において議論を進めてきた北区基本計画案を基にパブリックコメントを実施した。本日は、その結果の概要をご紹介させていただくとともに、いただいたご意見ならびに前回の本会議において頂戴したご指摘をも加え、修正した次期北区基本計画の最終案について、改めてご意見を頂戴したい。なお、本日の意見を踏まえたものをもって、市長まで伺い、決定をしたのち、次期計画が発行するとの流れを考えている。それでは進行については、本会議の座長である志藤先生にお願いする。

○志藤座長

本日は皆様、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。また、新旧、退任された委員の方も一緒にご参加ということで、本当に心強く思っている。ぜひ活発なご意見を寄せていただけたらと思う。

それではお手元にある次第に沿って進める。北区基本計画の最終案とパブリックコメントの結果についてということで、皆様にはご議論に参加いただくことをお願いしたい。

(資料4・5・6・7を使用し事務局説明)

○志藤座長

これまでの会議での意見やパブコメでの意見を反映した案を、本日提案していただいた。

緊急事態宣言直前のパブコメ期間中に本学へお越しいただき、北区基本計画について学生に向けて、丁寧にご説明いただいた。学生からは、北区に通学する中ではじめてこのような計画があることを知ったという感想もあり非常に良い機会となった。多くの学生が数年はこの北区の大学におり、北区で活躍できる年代である。北区の計画の実現へ向けて少しでも寄与してもらいたい。良い機会となった。それでは改めて、内容に関してご意見、ご質問等ありますか。

○中谷委員

10ページ「13.賑わいがある拠点があるまち」から修正された「13.賑わいがある生まれる拠点があるまち」について、目次が修正前の表記になっているので合わせて欲しい。

○志藤座長

非常に重要なご指摘であった。ほかはいかがか。

○加瀬委員

障害の「害」という漢字について、国からの発行物は「害」を使用しているが、この計画についても国の計画に合わせて「害」を漢字にしているのか。

「害」という漢字の持つイメージや、障害者手帳をもつことに抵抗を感じる人もいる。ひらがなで「がい」とした方がよいのではないか。

○事務局

京都市の記載方法としては「害」を漢字で表記することになっているが、様々な受け止め方がある。この件についてはもう一度、京都市の基本計画等を確認し、修正が必要であれば修正するという形にさせていただきたい。

○志藤座長

市の計画に合わせる、合わせないという判断もあるが、私と事務局に預らせていただきたい。ほかにご意見はないか。

○中谷委員

先ほどのご質問に関連して、例えば8ページ「障害がある人と交流があるまち」に関して、30ページのアクションでは健常者からみた障害者の視点になっているが、障害者が主体となった視点で書かれた方がさらに進んだ社会の姿になるのではないかと思う。表現が大きく変わることであるので慎重に検討する必要があるが、障害者の方が主体となるような表現のものもどこかに入っていた方がよいのではないかと思う。

○事務局

例えば北部山間地に暮らす人に関しては、北部山間地の住民目線で書かれているものも含まれているなど、他のライフステージに関しては主体・客体が混在している状態である。この右ページは「まち」が取り組む内容が記載されており、該当するライフステージの人も「まち」の主体となりうる。今一度、表現など検討させていただきたい。

○水田委員

当たり前のように、障害という言葉を使っていたが、改めて考える機会になった。理念としては理解していても、他の部分に言葉として理解していない部分がでてきていたことを改めて気づく良い機会となった。

○寺田委員

確かにおっしゃる通り、障害のある人たちを客観視してみる見方もあるが、だからといって表現をそのように変えるのは非常に難しいように感じる。まずは理解をして知ることからすべてが始まるのではないかと思う。健常者の立場から障害者の人を見下ろして理解するというのではない、ということは大前提として、さらにその先へ進むステップとして障害のある人主体で考えると良いのではないかと思った。

もう1点、今更という気がするので感想として申し上げるが、P3の私たちを取り巻く環境について、全てネガティブなものになっている。コロナにより社会が変わろうとしていることは、必ずしも悪いことだけではない。人口減少に関しても、交流人口の増加など、住んでいる人たちだけでまちを考えるのではなく、多様な考え方でとらえられるようになるなど、新しい考え方への加速に繋がっているように感じる。

新しいことが必ずしも本当に良いことかどうかというのは難しいが、将来に向けて立ち上がっていくことを考えると、取り巻く環境についてネガティブなことだけでなく、何か新しい効果が生まれる機会を見つけるというような目線があっても良かったかもしれない。感想なので変えて欲しいということではない。

○志藤座長

現状としてネガティブな部分は、この計画で徐々にポジティブな方向へシフトアップさせていくのが良い。我々としては、3章の部分で頑張っていきたいと思う。

障害の表現についても様々な議論、論点がある。本人の問題だけでなく社会の問題もある。行政計画なので確認は必要であるが、「手を取り合って」進めていきたいという計画なので、様々な方に手に取ってもらえるようなものにしたい。

○向井委員

ライフステージのページについて、中を見なければどのようなことが書いてあるか分からない。ライフステージのページに共通するタイトルとして「まちが手を取り合ってこんなことに取り組みます」と記載されている。これは非常に重要なキーワードではないか。これを12ページに入れてはどうか。

○志藤座長

ぜひそのようにさせていただきたい。

本日いただいた意見に関しては検討させていただき、事務局と私の方で最終的なものを決めさせていただくということで了解していただいでよいか。

それではこの議題に関しては以上としたい。続いて、議題その他に移る。

(資料8を使用し区長説明)

○志藤座長

皆様にはご協力いただき感謝する。本日頂いたご意見は引き続き事務局と検討を重ねたい。
以上をもって、本日の議題については終了とする。

○事務局

志藤座長、副座長、委員の皆さま方には活発で有意義なご意見をいただきありがとうございます。ごさいました。「次期北区基本計画～“つながり”の力によるまちづくり～」の推進に引き続き委員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。本日はこれで終会とする。